

## ON AIR

NO.

89

放送大学通信 オン・エア

発行月 平成20年3月

発行 放送大学

〒261-8586 千葉県美浜区若葉2丁目11番地  
043-276-5111(代)

## CONTENTS

特集:世界のOPEN UNIV.訪問記Ⅱ	1
新教育カリキュラムについて	3
コラム「放送大学の歴史」	4
特集:輝く卒業生たち	6
放送大学エキスパート・新設プランのご案内	10
平成20年度開設改訂科目のご紹介	12
研究室だより	16
学習センターだより	17
退任のごあいさつ	18
同窓会・卒業生だより	19
インフォメーション	20

特集 世界のOPEN UNIV.訪問記Ⅱ

## イギリス公開大学を訪れて

学長 石 弘光



12月、冬を迎えたある朝、ロンドンから列車で30分ほどの所に在るミルトンキーン駅の駅頭に、事務局長の池原充洋さんと二人で降り立った。イギリスの冬特有のどんよりと曇った天候だった。この町にイギリス公開大学のメイン・キャンパスがあるのだ。駅のカフェーでモーニング・ティーの後、タクシーに乗り込む。10分ほど車でいくと、建物が20以上もある、広大なキャンパスの公開大学の入り口に到着した。

イギリス公開大学は1969年に政府によって創設され、イギリスのみならず欧州でも、最も古い遠隔教育の大学である。その自負ゆえか、自分たちのことをただThe Open Universityと称し、決してその前後にUKという国名をつけていない。いかにも大英国的だと、前々から思っていた。訪問前から、学長、副学長に訪問の目的を伝えてあったので、担当者によって手際よく2日間の訪問プログラムが組まれていた。訪問の目的は、(1)イギリス公開大学による遠隔教育の現状を知りたい、(2)放送大学との学術交流協定の可否について議論したい、の2点に置かれていた。

最初に対応してくれたのはOpen University Worldwideの女性の責任者で、公開大学の海外戦略

をパワーポイントで丁寧に説明してくれた。世界30カ国にある大学などの関連機関とパートナーの契約を結び、公開大学の教材、カリキュラム、教授方法などをライセンスを与え使用させ、学位や認証状を出している。国内の学生数16万人に対し、海外の学生数20,000人ほどを持つと聞き、まず海外業務での大学のスケールの大きさに驚かされた。そして一般の通学制大学と競合して教育および研究のレベルは高く、各々のランキングでケンブリッジやオックスフォードと十分に対抗できるとのこと。放送大学との彼我の差を痛感させられた。

その後、昼の時間になり副学長と事務総長の二人に、大学内にあるレストランで昼食の招待を受け、具体的に学術交流協定について話を詰めることになった。午前中、大学の概要の説明を受けているだけに、両大学の実力の差を思い知らされ、池原さんと学術交流協定の話を引っ込めようかと小声で囁きあった程である。しかし先方はこちらの来意をよく承知してくれており、具体的かつ建設的に交流協定の締結に向け話を運んでくれた。大学の規模・業務の違いもあるので、大学間の協定にするが放送大

学と特に関連の深い学部（7つある）と、相互協力を結ぶ方が、実質的に意味があるだろうという理解に達した。教材、番組制作などで具体的に協力できそうである。

昼食後、図書館に案内してもらいその施設、蔵書の多さに感心した後、遠隔教育手段を担当するセンターの教授から公開大学の現状について説明を聞く。テレビ、ラジオでなく、またDVD、Videoでなく、今後遠隔教育のインターネットが主流だと力説しているのを知ると、さもありなんと言う気持ちになる。

その日の最後の訪問先は、学長室であった。学長室のある大学本部は、キャンパスのほぼ中央に位置する2階建てのホワイトハウスにあった。待つことしばらくして、前の会議が延びたと詫びながら Brenda Gourley 学長が現れた。60歳前後の気さくな女性で、すぐに打ち解けて話が始められた。話の内容は、日英両国の諸事情も含め多岐にわたったが、放送大学との学術交流に関しては積極的でこちらとしても手応えが感じられた。いずれにしろ、初日の公開大学訪問は、実りのある一日であった。

翌日は、かねてより希望していた地域の学習センターを訪問することになっていた。イギリス公開大学は、全国で13の地域センターを持っている。ロンドンにはカムデン・タウンに一つあり、Regional Centre in Londonと称している。そこは東京の原宿

を思わせる賑やかな若者の街の一角に、二階建ての結構大きな校舎であった。所長、副所長は二人とも女性、20名ほどの職員が働いて

いた。早速、センターの概要の説明を聞く。放送大学は約9万人の学生で50の学習センターを持っていることから判断し、国内学生16万人のイギリス公開大学で13の地域センターしかないのも、一センターあたりの所属学生が多くなるだろうと考えていた。果たして、ロンドンでは2万人の学生をこのセンターで預かっているとのこと。

建物の中には、DVD、Videoなどの視聴覚の機器はなくまた図書室も貧弱で、学生に対するサービスはわれわれと大分質の異なるものであった。放送大



地域学習センター

のように、面接講義はなく学生とセンターの接点は、専らチュートリアル・クラスによる指導のようであった。このためにロンドンだけでも、約900人の膨大な数のチューターを抱えている。このチュートリアル・クラスのために、地域センターの下に、各地の大学の一角を借りた学習センターが置かれている。ロンドンではその数が25あり、学生は地域センターというより主としてそちらを利用しているようだ。

訪問の目的の一つに、ご年配の学生の皆さんと議論したいと先方に伝えてあった。所長との会談の後、施設を見学し、その足で皆さんの待っている部屋へと案内された。クッキー、果物、紅茶などが用意されており、如何にも心のこもったイギリス式の接待であった。そこで年のころ50歳代から60歳代までの男性1人、女性4名の計5名の学生の皆さんと1時間半ほど楽しい語らいがはじまった。私の一番に知りたかったことは、そのご年配の方々が公開大学で、何故学ぶのかその動機である。お一人の女性は目下パートで会社務めをしており看護師の資格を取りたいとのこと、他のお一人は修士・博士号を取得し大学で職を得たいとのこと、また純粹に自分の知識を向上させるためにパッションを持ってやっているのだという女性もいた。

全体としていえば2日目の訪問により、学習センターを通じての教育サービスは、放送大学の方が圧倒的にいいように思えた。初日と比べやや優越感をもって、ホテルに帰ることができた。

学生達と



# 2009年度から学部・大学院が再編成されます。

放送大学では様々な改革を行ってまいりましたが、その一環として2009年度より学部の専攻及び大学院のプログラムを再編成することとしました。学部については6専攻を5コースへ、大学院については4プログラムを6プログラムへ再編します。今号ではその概要をお知らせいたします。

## 学部（教養学部）

### 2009年度以降の学部の再編成（予定）



### 学部における卒業要件及び学生の所属の取扱いについて

- (1) 2009年度以降に入学する学生は、1年次入学、2年次及び3年次編入学を問わず、全て新コースの所属となります。
- (2) 2008年度以前に入学した学生も、できるかぎり新コースへの移行をお願いします。



### 学部新コースにおける卒業要件（予定）

区分	修得すべき単位数	単位修得上の要件及び認定方法	うち放送授業、面接授業から修得すべき単位数の内訳	
基礎科目	30単位以上	①基礎科目及び共通科目からそれぞれ8単位以上を修得するものとし、そのうち外国語科目（基礎科目、共通科目を問わない）を6単位以上を履修するものとする。	放送授業で修得すべき単位数	面接授業で修得すべき単位数
共通科目				
専門科目	60単位以上	①専門科目は、所属するコースの専門科目から30単位以上を修得するものとする。なお、卒業研究の6単位は所属するコースの専門科目として認定するものとし、その内3単位を放送授業、3単位を面接授業の単位として認定するものとする。 ②総合科目は、4単位以上を修得するものとする。	94単位以上	20単位以上
総合科目				
計			124単位	

\*基礎・共通・専門・総合の各科目の詳細については後日お知らせいたします。

## 大学院（文化科学研究科）

### 2009年度以降の大学院の再編成（予定）



### 大学院生の所属等の取扱いについて

- (1) 2009年度以降に入学する学生は、新プログラムの所属となります。
  - (2) 2008年度以前に入学した学生は、旧プログラム（群）の所属となります。
- \*学部と異なり、在学生の新プログラムへの移行はありません。また、修了要件に変更はありません。



## 面接授業が進化します！

- ・1時限あたりの授業時間数・総コマ数を見直し、授業日程や開設形態の弾力化を図ります。
- ・「Webによるオンライン手続き」を進め、追加登録を行いやすくします。

学部・大学院の再編成については今後も随時お知らせしていきます。

# はじまりの10年

～学習センターの四季～

人間の探究 総合文化プログラム文化情報科学群 教授 浜口 允子

1985年1月、開学をひかえて初めて行なった学生募集の結果が出たとき、応募者が定数を遥かに越えて19,000名にも上ったことは、当時大学の業務に関わっていた全てのものにとって大きな驚きであり喜びであった。開学を待っている人がかくも多数いたということ、放送大学は待ち望まれていたのだということが何にもまして嬉しかったのである。開学と共に動き出す日々の具体像はなお充分にはつかめなかったが、このとき私は、放送大学がまさに時代に合致した大学なのだという確信を得たように思う。そして、いったい誰が来るのかと学生となる人たちの入学を心待ちにしていた。

東京第一学習センター(現世田谷)



学生に出会う場は学習センターである。このときの学習センターは、地上波の届く範囲という制約によって、まだ関東の6ヶ所のみであった。地域学習センターが誕生して全国化が緒につくのは丁度10年目にあたる1994年であり、それまでの間は、東京に1ヶ所の学習センターとCATVによる2ヶ所（諏訪、甲府）の地区学習センターが新設されたものの、放送大学はなお地域的に限定された大学であった。しかしこの「はじまりの10年」は、過去に例のない新しい大学の、新しい学習システムのなかで、何をどのように学んだらよいかについて、また生涯学習とは何かについて、社会的にも理解が深まり、大学自身も改革を進めて、今日に続く放送大学の基礎が築

かれたときであったと思う。そして何よりも、学生との間で相互理解が進んだ時ではなかったろうか。開学以来重ねられてきた試行や改革の数々がいまは本当に懐かしい。



浜口 允子 教授

学生との最初の出会いは、1985年春、桜花爛漫のときであった。学生のさまざまな年齢、多様な仕事や生活などを慮って、各学習センターはみな「入学者の集い」とオリエンテーションを午前、午後、夜と繰り返し行なうこととした。新しい学習方法に早く慣れてほしい、そのためには大学の仕組みを説明したい、学生生活へのアドバイスもしたいという進める熱意からであったが、ある学習センターでは、4月の2週間に延べ26回の「集い」がもたれたのである。

だが、最大多数の学生に出会えたのは「集い」ではなく、酷暑の夏、7月後半の2週間であった。しかも初めての単位認定試験は、延べ6万を越える受験者数が予想されていたから、例えばどうしたら毎時間まちがいなく解答用紙を回収できるかなどについて、準備の議論は白熱した。「100人の教室で試験用紙の回収と受験者の入れ替えが短時間に混乱なくできるだろうか」。この問いに対し、一瞬脳裏には渋谷の駅前交差点の入り乱れる雑踏がよぎって、私



入学者の集い(神奈川学習センター)

たちは緊張した。だが、2週間にわたる現実の試験は淡々と進み、混乱は何も起きなかった。

こうして初年度の7月末、学習の第一サイクルが終わったとき、最初の課題であった学生との相互交流、相互理解はかなり進んだように思う。日々の出会いの中で聞くにつけ、多くの人が待ちに待って入学したことは本当だった。戦前から戦後への日本の歴史を反映して、若い頃学ぶ機会をもち得なかった人たちが、学歴願望によってではなく、むしろ自身の内なる価値を求めて、自己実現のためにこの機会を選択したのである。また自らに恵まれた時間の範囲で、学ぶことを楽しみたいという人も少なくなかった。そして、当時は3学期制であったから、息つく間もなく続く秋学期、冬学期の中でも、熱心に学ぶ数々の魅力的な学生に接した。

「知ることは楽しい。家事は押し入れにしまっています。」

「今、初めて、人生のテーマがわかってきました。」

現在でも、時折、学習センターで出会うことがある。知るよろこびを発見した人の継続性のつよさを物語るものであろう。

だが、矢張りここで、もう一つの側面にも触れておかなければならないかもしれない。

学習センターにおける春夏秋冬が一巡し、二巡し、三巡していったとき、学生の中に、転勤や出産、介護や健康問題など人生にしばしば不可避である事態に加えて、学習への意欲や大学への関心を失って去っていった人たちがいたこと、しかもその理由の大きな一つが孤独感であると聞いたことは衝撃であった。

私は、放送大学に勤務した23年余の中で、その多くの時を学習センターで過ごした。そのため、このとき以来「入学者の集い」で祝辞を述べる機会にあたると、忘れずに必ず次の一段を加えたのである。

「皆さんは今200名ほどですが、この春入学された方は皆さんたちだけではありません。このセンターだけでも1,500名、大学全体では42,000名にもものぼるのです。この数は今ここにいる皆さんの210倍です。どうか皆さん、この会場が210連なっている様子をイメージしてください。その全てを埋めつくしている人たちが皆さんの同期生です。皆さんは1人ではないのです。」

## 沿革 (1985年～1994年まで)

昭和60年 (1985)	4月	学習センター(群馬・埼玉・千葉・東京第一・東京第二・神奈川)学生受入れ開始
	4月	放送による授業開始
	7月	放送大学通信(ON AIR)創刊
昭和61年 (1986)	1月	産能短期大学との間で単位互換協定を締結(最初の単位互換校)
昭和62年 (1987)	4月	諏訪地区学習センター学生受入れ開始
	11月	アジア公開大学連合(AAOU)結成
昭和63年 (1988)	8月	甲府地区学習センター学生受入れ開始
	11月	放送大学校旗を制定(デザイン 永井一正氏)
平成元年 (1989)	2月	放送大学学歌(作詞:那珂太郎、作曲:柴田南雄)を制定



	4月	3学期制から2学期制への移行
	4月	第1回卒業式を国立教育会館虎ノ門ホールで挙げる
	11月	第1回生涯学習フェスティバル(千葉)参加以後毎年参加
平成2年 (1990)	3月	放送大学同窓会を設立
	6月	附属図書館開館
	10月	ビデオ学習センター(北海道・広島・福岡・沖縄)学生受入れ開始
平成3年 (1991)	8月	セミナーハウス開館
	10月	ビデオ学習センター(宮城・石川・岐阜・大阪・香川・熊本)学生受入れ開始
平成4年 (1992)	8月	高等専門学校専攻科との連携協力を開始
	7月	「放送大学とアサバスカ大学との協力及び交流に関する協定書」を締結
	10月	ビデオ学習センター(富山・静岡・愛知・長崎)学生受入れ開始
平成5年 (1993)	4月	東京第三学習センター学生受入れ開始
	8月	短期大学専攻科との連携協力を開始
	10月	ビデオ学習センター(青森・岩手・京都・兵庫)学生受入れ開始
平成6年 (1994)	6月	ビデオ学習センターを地域学習センターに改組
	10月	地域学習センター(新潟・三重・高知・大分)学生受入れ開始

世界に平和がくることを願って「イマジン」をうたったジョン・レノンの響みに倣えば、放送大学で学ぶものにとって必要なことは、眼前の事態を超えて想像する力をもつことであり、その力によって多くの人たちと「共にあること」を感じることであり、その上で自立して学ぶことであつたと思う。そして、それを実感できる場が学習センターであつたということであらう。

特集

# 輝く卒業生たち

放送大学にはいろいろなキャリアを持ったユニークな方や、修士・博士課程へ進学し学び続ける方、また職場・地域などで活躍している方など、輝いている卒業生が大勢いらっしゃいます。

在学生の皆様からは、卒業生がどのように活躍しているのかを知りたいという大変強い声があり、今月号では、特集として「輝く卒業生たち」を組みました。

「ON AIR」「大学の窓」では教職員から推薦いただいた方々を、これからも引き続きご紹介してまいります。

## マタイ伝、求めよさらば与えられん

久保田 英士さん

平成17年3月修士課程修了  
環境システム科学群



放送大学修士課程を修了し、直ちに長崎大学大学院生産科学研究科に入学し、もうすぐ3年経つ。年齢は既に81歳である。旧制工業専門学校時代は第2次世界大戦の最中である。同級生は戦時下の学徒動員中長崎の原爆で17人は即死し、教授2人も犠牲になった。学校も3年間の50%は学徒動員と戦後の食糧難のため休校となり、卒業のときは同級生全員落第と言われたが、学生が悪いのではなく、国家がそうだったので卒業はさせると言われた。惨憺たる人生の出発である。卒業後は「なに負けるものか」と心に決めて、頑健な体に鞭打って仕事に頑張ってきた。企業定年後は技術士の資格をとり、日本政府の専門家などコンサルタント業を行い、放送大学修士課程に入学する75歳まで働きつづけた。修士課程入学以降は勉学一筋とし、更に博士課程に進学し、毎日大学院の授業に出席し、「ごみ焼却炉のダイオキシン類生成抑制の研究」を行っている。学校卒業後、55年間は生活のため働きとおしたが、其の後自分の好きな研究を行い、学問的実績を1つでも残し、社会に貢献する研究を完成し、発表出来れば人生の終点に於いて、これほど良い祝福は無いと思っています。

現在、博士課程で行っている「ダイオキシン類生成抑制」の研究は放送大学修士課程の論文を基礎としているが、その内容は、既に博士論文に相当すると言われ、長崎大学ではこの論文を名実共に博士論文とするためにブラッシュアップしています。

海外のダイオキシン生成の博士論文を詳細に検討し、実機のごみ焼却炉のデータを用いてシミュレーションを行い、関連学会に研究論文の投稿を行っている。放送大学の修士論文あつての博士論文と言うことです。

筆者自身放送大学がなければ、博士論文を書くなど考える事も出来なかったと思います。長崎大学では「生涯学習の1つの成果だ」といわれています。

## 専門職としてのあり方を模索して —急性・重症患者看護専門看護師 としての道を歩み始めて—

荒井 知子さん

平成15年3月 学部卒業  
「発達と教育」専攻



5年前、私は約9年の歳月をかけて本学を卒業しました。入学のきっかけは、OBの叔父の勧めでしたが、ちょうど自己成長したいという意欲が高まっていたことも動機づけになりました。長い学生生活では、仕事の都合や怠り心から学習が停滞することがありました。この経験を通じて、生涯学習の姿勢、つまり自分の学習ペースを身につけることを学んだように思います。また、発達と教育専攻を基軸として多くの教科を学んだことで、様々な教養に触れることができました。後に、専門家の教育には一般教養・専門教育・実践教育が必要だということを知りましたが、まさに本学の授業の全てが、多くの教養と興味を掴み取らせてくれました。心理学や社会学で得た知識は、事象を捉え、問題を解決する助けになっていると思います。また、私の一生の言葉にも会えました。それは、教育学の授業で出会った‘学びとは心に誠実を刻むこと’という言葉であり、様々な事象にきちんと向き合うことに通じていると感じます。

卒業が現実味を帯びた頃、勤務先の集中治療室での看護を通し、もっとよりよい看護について学び、実践したい、という気持ちが高まり、専門看護師になる決意をしました。専門看護師とは、高度看護実践に取り組み、医療の質向上のために活動する看護師で、大学院での教育を受ける必要があります。専門看護師として認定を受けたのは昨年12月です。ケアの受け手となる人々に対し、自分ができることは何か、目の前のことに向かい合って、責任を果たせるように取り組みたいと思います。

集中治療室の同僚と



## チャンスの女神の 前髪をつかむ

瀬野 守史さん

平成17年3月 修士課程修了  
政策経営プログラム



現在は「NPO地域水道支援センター」の常務理事として多忙な日々を過ごしている。実績も徐々にでき、手弁当からの脱却が当面の目標であるが、近々達成できそうな予兆がある。忙しいが充実した日々である。

「チャンスの女神に後ろ髪はない」と言われている。人生最大の収穫は、学部での卒業研究、大学院での修士論文を通じてご指導を頂いた「先生（師匠）」との出会いである。思い込みの強い性格が災いし「先生（師匠）」と衝突もしたが、卒業後も親しくご指導を頂くことができ、大変感謝している。60才を過ぎた人生を豊かで実りあるものにする事ができ、女神の前髪を掴むことができた。

7年前の55歳の正月にお屠蘇を頂きながら定年後の生き方を考え、放送大学入学を決めた。人生の大半を過ごしてきた職場で得た知見を卒業研究にまとめ、修士論文でその知見を社会に還元する方法を探求し、さらに修士論文を実証するためNPOを設立した。志を同じくするメンバー47名が結集している。北は福島県、南は鹿児島県に及び年齢も20代から70代と幅広い。因みに卒業研究は「緩速ろ過浄水処理設備の復権」で、修士論文は「小規模水道が直面する問題解決のためのNPO可能性」がテーマである。

人生を充実させる呪文を贈ります。「Mission」「Passion」「Vision」。健闘を祈ります。

現在、再入学し「社会と経済」に在籍している。新たな研究課題について卒業研究に取り組む予定である。



## 実感できた 自己実現

松原 泰子さん

平成19年9月 学部卒業  
「人間の探究」専攻



3人の子供を持つ主婦が、48歳の時、偶然テレビで渡邊二郎先生の「哲学的人間学」の講義を拝見し閃いた。これが私の知りたかったことだと思い、すぐ神奈川センターに入学手続きをしに行った。

「人間の探求」を専攻して、1990年に入学。放送大学の充実した教材内容に魅力を感じながら、2年間は勉強に没頭した。ところが、50歳の時に夫のインドネシア駐在が決まり、やむなく大学は休学した。

6年間の駐在から帰国して再入学するまでは、思いのほか集中力を要した。やはり最初に入学した時の気持ちや、意欲を再び呼び起こすのは容易なことではなかった。しかしここでもまた、渡邊二郎先生の「自己を見つめる」に出会い、先生独自の解釈に魅了され、ますます哲学が好きになっていった。

家族を巻き込みながらの学生生活だったが、ランクも加えて17年もの歳月をかけて、2007年9月によく卒業できた。

卒業を記念して、その年の夏、「アフリカ ライオン」を自費出版した。30代後半に3年間駐在した1980年代のザンビア。異文化の中での生活は、ただただ驚きの連続だった。そこでの日常生活と、更に世界有数の野生動物王国であるザンビアの動物たちを取り上げた。

完成した本を手にしたときは、今まで味わったことのない達成感と幸福感に涙が出たほどだ。自分の思いを形に出来たことと卒業とが重なり、今は安堵感でいっぱいだ。



ザンビアにて

## さらに前に進もうと 研究生生活を謳歌

高木 豊さん

平成17年3月 修士課程修了  
環境システム科学群



現在、都内の大学病院で臨床検査技師として働きながら大学院博士後期課程に社会人大学院生として通っている。高校生の頃より、自然科学の学術研究の道へ進みたいと思っていたが希望どおりにはいかなかった。心の奥底にある希望をなかなか捨てきれず、放送大学及び同大学院で学び、希望をつないできた。

“抗凝血薬療法における患者意識とトロンボテスト値の関係”の研究テーマにて修士の学位を取得後、東京医科歯科大学大学院 保健衛生学研究科 生体機能支援システム学 若松秀俊教授の“遠隔救急医療および脳温管理の自動制御”などの研究内容を知り、自分の求め

てきたものとの接点を感じ博士課程に進学した。進学後、放送大学で得た知識がいたるところで



役にたち、かつて学んだ教科書を参考にすることも多い。また、放送大学に対する同教授の評価は非常に高く、指示される資料の中にも放送大学の教科書が含まれることもある。今さらながら、放送大学在学時にもっとしっかり勉強しておけば良かったと後悔すらしている。

放送大学で扱う講義内容は常に最先端であり、そのレベルは非常に高く、他大学に引けを取ることは決してない。放送大学でしっかり学べば、必要十分な知識以上のものが身につくと確信している。小生はもうすでに四十半ばを過ぎているが、幸いにも本格的な学術研究の道を与えられ、放送大学で学んだ知識を生かしさらに前に進もうと日々の研究生生活を謳歌している。

若松教授と研究室仲間たち



## 放送大学という 玉手箱

粟飯原 良造さん

平成17年3月 修士課程修了  
臨床心理プログラム



あるとき、ある母親から「あなたは、いい先生だとわかる。でも、こちらは傷つく。」と言われ…ショックだった。それで放送大学教養学部、ついで大学院で臨床心理学を基礎から学んだ。大学院での面接授業で私は“ひとり”で過ごしていた。あるとき同期生の一人が「食事と一緒に行きましょう。」と誘ってくれた…自分はひとりではないんだと初めて気づいた。“ひとりで何してる？”でもなく、“寂しいやろう”でもなく、ごくごく自然な誘いだった。コトバの力を発見した出来事であった。私はコトバで先の母親を傷つけていたんだ！…嬉しさと落ち込みの共存体験であった。

大学院卒業後は修士論文を審査していただいた先生とのご縁で、鳴門教育大学の教員となった。大学で教鞭をとる傍ら、母子支援として乳幼児健診や保育所カウンセリング、スクールカウンセリング、放送大学徳島学習センター客員教員として集中講義とカウンセリングゼミにかかわり、人と繋がること、人が成長すること、コトバを大切にすることを日々苦しく、楽しく感じている。さらに修士論文「長谷川式述部記録法」を発展させて博士号にも挑戦したい。

私にとって、放送大学は「学びと成長の原点」であり続けている。

健診スタッフの皆さんと



## 追い続けたい、 学びたい思い

岡本 照美さん

平成18年3月 学部卒業  
「人間の探求」専攻



5年前、市の広報で放送大学を知り、短大で満たされずに終わった学びたい気持ちを

継続したいと入学しました。科目の中で若桑みどり先生の「イメージの歴史」は正に目から鱗で、物事は一面だけを見ての判断ではなく深く考えなければならぬと、考え方も変えさせられました。大学では多くを学び多くの友も出来ました。シニア軟式野球チームに誘ってくれた友があり、職場と家の往復だった生活が一変しました。初めての練習日、「あらあー、男性ばかり！」と少し引けました。シニアとは言え、昔甲子園・実業団、元プロもおられるとか。投・打・守、まるで駄目の日々でしたが、ソフトボールの経験と負けず嫌いだけで続けて3年、時々試合に出していただける様になり、週2回の練習を楽しんでいます。経歴や年齢差はあっても、グラウンドの中では皆が1個のボールをひたすら追いかけ、大学では学びたい気持ちを追い続ける、どちらも同じであろうと思っております。再入学して1年、「放送大学エキスパート」が組み込まれました。地域で日本語ボランティアをしており、試行錯誤の中「異文化コミュニケーションプラン」は誠にタイムリーでした。中国語が役立てればと始めましたが、学ぶべきは先ず日本語であると教えられ、対話あつてのコミュニケーションとの思い込みを、人とのコミュニケーションは言語が唯一の手段でなく、多くは非言語に因ると、またもや鱗が一枚剥がれました。教室で知り合った中国人女性を招き、友人数人と餃子作りを習いました。身振り手振りを交えて大騒ぎ。美味しく楽しい餃子パーティでした（大好評第2回計画）。学べば活かされる、実感です！



一昨年の県大会でみごと優勝！

# 放送大学エキスパートは、平成20年度から22プランに6つの新プランを紹介します。



放送大学エキスパートは大変好評を得ており、平成19年12月現在の認証状取得者は1,176名に達しました。

平成20年度からは、これまでの16プランに「食と健康アドバイザープラン」「ものづくりMOTプラン」「コミュニティ学習支援プラン」「アジア探究プラン」「日本の社会・文化探究プラン」及び「自然系博物館プラン」の6プランを加え、全22プランとなります。新たに加わったプランを以下に紹介します。

詳しい認証取得条件は、「科目群履修認証制度(放送大学エキスパート)について(平成20年度)パンフレット」(学生募集要項、科目登録申請要項、継続入学用書類等に同封。また学習センターにも配架してあります。)をご覧ください。また、これまでの16プランについても、平成20年度に授業科目群が変更となっている場合がありますので、同パンフレットで最新の条件をご確認ください。

プラン別認証状取得者の内訳

平成19年12月現在

プラン名	認証状取得者
1 社会探究プラン	33
2 市民活動支援プラン	71
3 実践経営学プラン(*)	27
4 宇宙・地球科学プラン(*)	2
5 生命科学プラン	84
6 環境科学プラン	29
7 社会数学プラン	10
8 心理学基礎プラン(*)	107
9 エネルギー・環境研究プラン	21
10 異文化コミュニケーションプラン(*)	7
11 次世代育成支援プラン	114
12 健康福祉指導プラン	394
13 福祉コーディネータプラン(*)	50
14 社会生活企画プラン	78
15 芸術系博物館プラン(*)	31
16 歴史系博物館プラン	118
合計	1176

(\*)のプランは平成19年度から実施、その他のプランは平成18年度から実施



## 食と健康アドバイザープラン

「生活と福祉」専攻 教授 中谷 延二

現代のわが国では従来の日本型食生活が欧米化し、さらに外食習慣も定着し多様な食形態がみられます。食生活の変化とともに市場では海外からの食材があふれ、その反面農作物の自給率が低下し、総エネルギー比では40%を割っています。一方、メタボリックシンドロームに象徴される種々の生活習慣病の増加は、食生活の不規則さ、過食、偏食に起因すると言われてい

ます。このような状況の下で「食による健康の維持・増進、疾病の予防」は極めて高い関心事です。本プランは、食品のもつ栄養学的、生理学的機能を修得し、ヒトの健康科学、食の安全性、食文化をはじめ、広く農産物の生産、加工、流通、購買、調理の過程における社会的、経済的知識を習得、理解する上で、正しい情報と健全な視野をもったキャリア、アドバイザーを育成するものです。



## ものづくりMOTプラン

「自然の理解」専攻 教授 東 千秋

私たちの国、日本は何をよりどころにして行けばよいのでしょうか。これまで稼いできたお金を運用してやればよいのでしょうか。お金の運用は失敗のリスクがあります。日本が今あるのは、ものづくりに優れた結果です。ものづくりは、お金より健全な国のよりどころになり、また日本の本来の得意分野です。そのことを思うとき、技術立国日本の産業にとって、新産業や新技術を創出し、イノベーション(技術革新)を推進する人材の育成が急がれます。それは、イノベーション・プロデューサーの養成でもあります。そのために放送大学の社会経験豊かな学生やこれから社会で活躍する学生に基本的知識や考え方を学んでもらい、イノベーションの促進にチャレンジする意欲を高揚してもらおうというのが、ものづくりMOT(Management of Technology)プランです。どんな科目を勉強するのか、ものづくりMOTプランの授業科目群の構成表をご覧ください。幸いです。



## コミュニティ学習支援プラン

「発達と教育」専攻 教授 岩永 雅也

地域社会（コミュニティ）における学習活動は、学校教育と比べ目的が極めて多様で、しかも方法的に体系化されておらず、どのような形をとるにしろなかなか効果的に進められないのが現状です。そこで、自分自身も質量ともに十分な学習を経験し、生涯学習に関して十分な知識と理解とを持つ学習支援者（アドバイザー）の存在に大きな期待が集まっています。学習支援者には、まず何よりも、人が学ぶことそのものへの理解と、社会の中での学習活動のあり方への理解が求められます。それらを基礎に、自らの学習体験を踏まえて学習者を有効に支援できる技量を習得することが必要です。「コミュニティ学習支援プラン」は、皆さんがそうしたいわば「学びのエキスパート」になっていただくためのプログラムです。自らの学びを通じて他の多くの方々の学習をサポートする…考えただけでもわくわくするような学びの目的だと思いませんか。一人でも多くの参加を期待します。



## 日本の社会・文化探究プラン

「人間の探究」専攻 准教授 島内 裕子

今わたしたちは、世界に目を向けると同時に、日本のことをよりよく知ることも大切であると、気づき始めたように思います。昔からの人々の生き方や価値観は、不思議と現代人が求めるものと一致している場合があるからです。無駄を省き、物を大切にし、ユーモアの心を忘れずに、お互い同士がなごやかに暮らす…。多様化する現代社会の中でこそ、身近な日本の歴史や文学や芸術を、もう一度、集中的に学び直してみませんか。これまで歩んできた歴史を客観的に振り返ることは、未来への展望を開くヒントとなるでしょう。「源氏物語」や「徒然草」や芭蕉などの古典文学は、今を生きるわたしたちの心と響き合い、精妙な言葉のはたらきを再認識させてくれます。

日本の文化と社会を学ぶことは、言い換えれば、「おのれを知る」ことでもあります。それは、静かな自信を持って周囲と深く円滑にコミュニケーションできる、成熟した大人になることにもつながるのではないのでしょうか。



## アジア探究プラン

「社会と経済」専攻 教授 高橋 和夫

アジアは広い。アジアは多様です。しかし同時に放送大学の専任と客員教員のアジアに対する知識の広がりや、アジアをそのまま受け止めるほどの広さと深さを持っています。またアジアの多様性に負けないほどの豊かさです。東アジア、東南アジア、南アジア、中央アジア、西アジアに関する科目が放送大学で提供されています。この広さと豊かさを活用して、アジアの各地域と学問分野を横断し、アジアを多様な視点から包括的に学ぶ。これがアジア研究という新しい認証プランの狙い입니다。

アジア全体に取り組んでも良いし、アジアのある地域を選んで勉強するのも素敵です。できればアジアの言語も一緒に学ぶのがオススメです。たとえば「第三世界の政治」でパレスチナ問題という視点から西アジアつまり中東の政治を視野に収めつつ、「初歩のアラビア語」で国連の公用語の一つでもあるアラビア語の基礎とアラブ・イスラーム文化に触れる。そうしたメニューを想像しています。



## 自然系博物館プラン

「自然の理解」専攻 教授 濱田 嘉昭

母なる太陽の子である地球は生きています。大地は不動であり、かつさまざまな景観を作りながら変化しています。そしてこの地球上に生きている動植物の姿や活動には驚きと感動をもちたずにはいられません。自然は私達を育む揺りかごです。その自然の不思議を解き明かしてくれるのが科学であり、自然を探求する手段を提供してくれるのが技術です。自然系博物館には、この自然と科学・技術が詰まっています。

博物館に行こう。そして、自然を科学と技術の目で感じ取ってみよう。どのような姿をしているのか、どのように活動しているのか、なぜなのか。これらの謎を解き明かしてくれるのが、この「自然系博物館プラン」が提供している科目群です。子供たちに自然・科学・技術の素晴らしさを伝えるリテラシーを磨きあげるのに大いに役立つこと、間違いなしです。ボランティアを考える人には必須のプランです。さあ、あなたのチャレンジを待っています。

## 初歩からの生物学('08)

「自然の理解」専攻 教授 「自然の理解」専攻 教授 「自然の理解」専攻 准教授  
 星 元紀 松本 忠夫 二河 成男



二河 成男 准教授 星 元紀 教授 松本 忠夫 教授

環境問題に象徴されるように、生命の惑星地球はかつてない深刻な事態に直面しつつある。その原因は人類の活動によるところが大きいといわれており、われわれ人類は何処に行こうとしているのかという、漠とした不安が人々の心に蔓延しだしている。このような状況にあって、生きているとはどういうことであるのか理解したいという思いを強くする方も少なくないであろう。生物学は20世紀後半に劇的な展開をみせ、今世紀は生物科学の時代といわれるまでになった。生物学の話題が新聞やテレビに連日取り上げられ、いまや生物学の基本的な知識なしには、日々直面する食料・医療・育児・環境などをめぐる問題に対処することすら難しくなってきた。「初歩からの生物学('08)」は現代生物科学への入り口として、これまでに生物学を学ぶ機会の少な

った方たち、あるいはごく若い頃に生物学に接しただけの方たちに、日常生活と関わりのある生物学上の題材などを通じて、生命誕生以来絶えることなく続く生物の世界の成り立ちと、生命活動を支える精妙な仕組みとについて、大掴みにその概略を理解してもらうことを目標として企画された。そのような理解を通じて、生きているとはどういうことなのか、ヒトは何処から来て何処に行くのかなどを、より深く考えることができるのではないかと期待している。同時に、看護師などの医療分野における専門技術者を目指す方たちにとっては、専門的な教育の前提として欠くことのできない生物科学の基礎知識を、身につける機会ともなるであろう。

## 初歩からの化学('08)

放送大学 副学長 東北大学大学院 教授 東北大学 名誉教授  
 (放送大学 客員教授) (放送大学 客員教授)  
 荻野 博 大野 公一 吉良 満夫



荻野 博 副学長 大野 公一 教授 吉良 満夫 教授

平成20年度から「初歩からの〇〇」という科目が4つ開設されます。「初歩からの化学('08)」もその一つとして開設されるものです。この科目名でもお分かりのように、この科目は化学をまったく学習したことのない人や、学んだことはあるけれども改めて学習し直して知識を確実なものにしたい人を主な対象にしています。このため、解説ができるだけ平易になるように努めました。

化学の学習には実験がとても効果的です。実験をすることによって、物質変換を目の当たりにすることができます。実験の楽しさや驚きを感じることで学習した知識が忘れられない記憶になるのではないのでしょうか。そこで、「初歩からの化学('08)」では、できるだけ放送授業に実験を取り入れるように努力しました。放送授業の中で行う実験には、いま世界中に普及しているマイクロスケールケミスト

リー\*をたくさん取り入れています。

印刷教材には新たな試みとして、DVD-ROMを添付しました。放送教材で使ったたくさんのパターン(図表など)が収められ、すべてのパターンに解説がついています。また、C<sub>60</sub>の発見者であるイギリスのKroto教授(ノーベル化学賞受賞者)への質疑(第14回の放送教材の一部)の様子も収録されています。

「初歩からの化学('08)」を視聴学習することによって、楽しみながらしっかりとした学力を身につけていただきたいと思います。

\*従来の実験の規模を大幅に小さくする工夫をした化学実験のことです。このことにより、試薬の使用量と費用が削減でき、実験廃液等が画期的に少なくなり、実験時間も短縮され、省資源・省エネルギーになります。したがって、環境に優しい実験を行うことができます。新しい化学教育法として世界に普及しています。

## 心理臨床の基礎（'08）

「発達と教育」専攻 教授 小野 けい子



小野 けい子 教授

現代は「こころの時代」と呼ばれます。確かに、近年心理臨床に対する関心が高まっていて、心理臨床、臨床心理学を学びたいと思っておられる方々に、筆者もよくお目にかかります。現代の日本が、物質的豊かさを享受し、精神的側面を問題とするだけの余裕をもつようになってきたと見る向きもありますが、現代社会は、なかなか生きにくい社会でもあります。

家族、地域、社会の変化、情報化などは著しく、その激しい変化の中を、手本とするモデルなしに、時間に追われながら、われわれは、生きることを余儀なくされています。それは、こころの不安定を誘うものでもあります。また、こころの危機に際しても、伝統的な地域や家族の力や知恵に頼って解決することが難しく、個々人が、個人としてその困難に向か

わなければならないことが基本となってきました。

実践の学である臨床心理学は、伝統的心理学から発展してきたというより、心理臨床の実践現場から必要とされて生まれ、発展してきた学問です。心理臨床の専門家である臨床心理士が、いじめ・不登校対策にスクールカウンセラーとして全国の公立中学校に配置されたり、神戸淡路大震災に際して心のケアに活躍したのをご存知の方も多いことでしょう。「心理臨床の基礎（'08）」は、現代人の心の健康の回復や増進を援助する心理臨床の基礎について、臨床心理査定、臨床心理面接、臨床心理的地域援助、研究等を概説しています。

## デザイン工学（'08）

スタンフォード大学 コンサルティング教授 福田 収一  
(放送大学 客員教授)



福田 収一 教授

20世紀の、便利な生活を目指したモノづくりの時代から、21世紀はこころの満足、自己実現を図る豊かな人生を追及する時代となった。

20世紀はいわば鉄道の時代である。線路を見れば誰にでも行く先は分かる。したがって、いかに早く、正確に到達するかが重要であった。しかし、21世紀は航海の時代である。嵐が来れば、予定しない港に寄航しなければならない。またあまりにも天候が悪ければ、最終目的地も変更しなければならない。すなわち、航海では、決断は早ければ早いほどよいわけではなく、適切な時に行わなければならないし、またその決断も場合によってはなんのための航海なのか？を改めて問う必要がある。このように、鉄道の時代は戦術が主体であったが、航海の時代は、戦略が重要となる。

これは、価値観の変換でもある。20世紀は、地理的市場の価値観を満足する製品を供給していた。そ

の流れは、生産者から顧客への一方向であった。しかし、21世紀は個性化が進み、価値は個人の感覚に左右されるようになり、さらに、生産者と顧客がともに価値を創造する時代、いわば新しい市場を創出する時代となった。

本講座は、このように大きく変貌しつつあるデザインの動きを理解し、新しい世界へと適応できるための基本的な考え方の修得を狙いとしている。20世紀とは異なり、21世紀は、生産者と顧客がともに価値を創造する時代である。したがって、この講座の内容も、これまでのように、生産者側だけを想定していない。いかに、生産者と顧客が価値協創できるかに力点を置いている。したがって、生産に関係されない顧客側の方もぜひ多数聴講頂きたいと願っている。

## 国際共生に向けた健康への挑戦('08)

「生活と福祉」専攻  
教授

多田 羅 浩三

東京医科歯科大学大学院 教授  
(放送大学 客員教授)

河原 和夫

国立保健医療科学院長  
(放送大学 客員教授)

篠崎 英夫



ヴィ所長 多田 羅 浩三 教授 河原 和夫 教授 篠崎 英夫 教授

今日、人々の生活は地球規模で展開する経済自然環境の中で営まれています。世界中の人間がまさに、国境という枠を超えて「共生」しているといえると思います。そのような中で、とくに健康の保持・増進、また感染症予防は、各国に最も共通の重要な課題になっていると思われます。

そういう観点で、講義では、タイ、ベトナム、インド、インドネシア、アフガニスタン、フィリピン、日本の7か国を対象として、「共生」しているという観点から、人々がどのようなヘルスケア・システムの中で生活しているのか。どのよう



ハノイスアンティンヘルスステーション

な健康課題に挑戦しているのか。タイ、ベトナムでの現地取材をもとにした施設紹介やインタビューを含め、話しをします。

また、「アメリカの健康づくり」をテーマに、経済、政治の各面でわが国との関係がとくに深いアメリカにおける健康づくりはどのような現状にあるのか。「WHOにおける挑戦」をテーマに、国際保健推進の世界の拠点機関であるWHOでは、どのような挑戦がすすめられているのか。そして、今日の世界最大の健康課題といっても過言ではない、「エイズ」の現状はどのような状態にあるのか、考えてみることにします。

こうしてそれぞれの国の現状をみてみますと、まさに地球規模で人々の健康増進計画が進んでいると認めざるを得ません。そうであるとすれば国際共生という理念に立って、健康への挑戦に向かい、もっともっと学び合うことが可能であり、協力することができるのではないか、ということ、講義を通じて、伝えたいと願っています。

## 日本経済史('08)

関西学院大学大学院 教授  
(放送大学 客員教授)

宮本 又郎



宮本 又郎 教授

本講義では、江戸初期以降約400年において、日本経済がどのような足跡を辿ってきたのか、どのような大きな節目があったのか、そして今日、私たちはどのような到達点に立ち、どのような課題に直面しているのかを、受講者に理解していただくことを目標とします。

講義では、まず国民所得統計など基本的な経済データから長期的な経済発展の過程を数量的に明らかにします。次いで、各時代の重要な経済史的トピックスを取り上げますが、そのさいマクロ経済の動きや産業構造、経済制度や経済政策、産業政策の動向とともに、企業や企業組織、企業家の活動、家計と消費、技術と労働などのミクロ経済の側面にも光をあてるよう努めたいと思います。

講義は約半分を主任講師（宮本又郎）が担当しま

すが、残りの半分については日本経済史や日本経営史の分野の第一線研究者である阿部武司教授、沢井実教授、中林真幸准教授（いずれも大阪大学所属）にそれぞれ専門の分野を担当していただきます。

日本経済は20世紀末の長期の不況を経て、いま新しい局面を迎えています。どのような未来が開かれているのでしょうか？ 過去の歴史からの必然の道が存在するとは思えませんが、歴史の流れとまったく断絶した未来もありえません。受講者の皆さんが、歴史をしっかりと学び、それを踏まえて、それぞれに未来について思いを馳せらんことを期待しています。

## 物質環境科学Ⅱ('08)

総合文化プログラム 名古屋大学大学院 教授 国立天文台 教授  
 環境システム科学群 教授 (放送大学 客員教授) (放送大学 客員教授)  
**海部 宣男**      **杉山 直**      **佐々木 晶**



海部 宣男 教授



杉山 直 教授



佐々木 晶 教授

人類の活動が地球環境に及ぼす影響について、真剣な議論が行われるようになりました。いまや文明の存続すら、問題視されるに至っています。とはいえ、「環境」が地球レベルの課題として認識されはじめたのは20世紀の半ば以降、つい最近のことです。私たちは、「環境」という膨大な対象を客観的に認識するためのスタートラインに、ようやくついたところとっていいでしょう。

そもそも地球と地球上の生命、人類とその文明は、膨張する宇宙で進んだ莫大な営みの上に生まれたものです。人類が未来を切り開くには、その存在基盤であるさまざまなレベルの環境と、背後にある大きなしくみを理解することが大切ですが、私たちはまだそれには遠く、一步一步と、科学的解明を積み上げてゆかねばなりません。現代の地球市民には、どこまでが科学的に理解されており、何が憶測や未確定情報なのかを自ら判断する、しっかりした自然観

と科学的環境意識を持つことが求められています。

この講義は、そうした視点にもとづいて、私たちが活動する場としての環境を、宇宙の長い歴史の中でとらえなおす試み＝「地球市民の環境学」基礎論の試みです。地球と生物を創生し支えてきた物質・エネルギーの源泉や転化・循環のしくみはどのようなものか。さまざまなレベルの環境はどのように生まれ、変化しているのか。副題に「宇宙・地球システムと人類」とあるように、天文学・地球科学の専門家による15回の講義を通して、人類文明の基盤を物理学的・歴史的視点から考察します。世界（自然）の理解を基礎に、人類と文明の未来についての長期的な視座に立つ地球市民の環境学への一歩として、この講義が役立てば幸いです。

## 大学のマネジメント('08)

広島大学大学院 教授 桜美林大学大学院 教授  
 (放送大学 客員教授) (放送大学 客員教授)  
**山本 眞一**      **田中 義郎**



山本 眞一 教授



田中 義郎 教授

このたび、桜美林大学の田中義郎先生と一緒に「大学のマネジメント」という授業を開始することになりました。これは、近年の大学を巡る諸環境の大きな変化の中で、大学のマネジメントに抜本的な革新が求められていることに対応してのことです。たとえば、18歳人口の減少が私学経営に大きな影を投げかけ、また国公立大学においては法人化後の大学運営に格段の工夫が求められていることが挙げられるでしょう。さらに雇用構造の変化や科学技術の高度化、大学マーケットのグローバル化などに対応するためには、従来の大学事務処理を遥かに超えるマネジメントの革新が求められているのです。本授業科目では、これらの変化に対応するための知識や考え方を、大学事務職員を始めとする関係者の皆さ

んに身に付けてもらうことを目的としています。

具体的には、最初に大学を巡る環境変化、大学という組織の特性や職員の能力開発の必要性、外国の大学の事例など総論的な内容を学んだあと、国公立大学別の対応や広報、学生募集、教務・学生サービス、研究管理、評価、危機管理などの各論を取扱い、最後に大学における改革の現状を理解してもらい、将来の大学像を各自で描いてもらえるような構想で設計されています。現に大学事務職員である方々だけではなく、大学問題に関心のある多くの方々が大学のマネジメントという課題に取り組まれることを期待しております。



## 学生さんには、頭が下がります

「社会と経済」専攻・政策経営プログラム 教授 中嶋 士元也

2007年度の「社会と経済」法律領域の卒業研究対象者は数名おりましたが、古賀義章さん（熊本学習センター）と西坂晃一さん（東京多摩学習センター）の2名が見事卒研を提出されました。右のスナップ写真は、2007年12月15日に“厳格な”卒研面接審査の終了した後で、“緩やかな”反省会をしているところを撮ったものです。お二人とも、本当によく研鑽（けんさん）を重ねられ、私も原島良成先生も頭の下がる思いがしました。この経験を今後の学習に役立てていただきたいものと、切望します。

以下には、お二人が寄せてくれた“卒研奮戦記”を掲載します。

### ●学生からのコメント●

卒業研究を提出して

古賀 義章

大学に於いて自分なりの成果として卒業研究を履修することは入学当初からの目標でした。中嶋ゼミで中嶋先生の個別指導の御陰をもちまして、卒業研究を提出できました。特に、参考文献・判例等理論を組み立てる基礎の部分の資料とそれを自分の理論として論文にどう組み入れるか、という点を優しく丁寧に指導して頂いたこと、また「論文を書く」と畏まっていた私が、先生の柔らかい人柄により余り



左より西坂さん、古賀さん、中嶋教授、原島准教授

堅くならず、そして遠回りもせず完成させることが出来たこと、など大変感謝しております。

私の苦勞

西坂 晃一

中嶋ゼミでは、私のペースに合わせてご指導を頂けました為、仕事や生活に支障なく研究を進めることができ、大変感謝しております。

卒業研究で一番苦勞したのは、資料収集でした。図書館の開館時間の関係で、図書館を利用するには会社を休む必要があり、思い通りに資料収集できず苦勞しました。

今回、卒業研修を履修して、学ぶことの楽しさを再発見できたことは大きな収穫でした。知りたい事はまだまだ沢山ありますので、今後は大学院への進学を目指して頑張りたいと思います。

## —「出会い」と「やる気」—

「人間の探究」専攻・総合文化プログラム 文化情報科学群 教授 工藤 庸子

放送大学の教員になって四年目。ゼミの人数と活気は着実に上昇しています。わたしの専門はフランス文学ですけど、学生さんのテーマは歴史、映画、思想、文化など、本当にさまざまです。人文系の学問は、一にも二にも文章力。「思考力」とは言葉をあやつる能力です。その意味では、個人の技をみがくことが最終的な目標となる。当然ながら、メールや電話での個別的な指導は重要なのですが、かりに教室という出会いの場がなかったら、やはり大学の面白さは半減するでしょう。

わたしのゼミは二部構成。まずは教室での発表で、教師がコメントや質問をする現場を全員で見ることが大切です。いろいろな研究の技法があるのだから、と実感していただくだけでもいい。後半は別室で個人指導。その間、学生さんたちは待合室化した教室で情報交換をして「やる気」を出しているらしい。

むしろこちらが「スクーリング」の醍醐味なのかもしれませんね。

### ●学生からのコメント●

わたしにとって、ゼミは言葉の真の意味での「考える」ことを求められる特権的な場。ふだん使わないアタマの筋肉を使う。だから終わったあとはとっても気持ちがいいんです。ゼミに参加しなければ、わたしはおそらく一生、「近代」や「他者」について考えてみることもなかったでしょう。工藤先生からは、



問いを立てることの難しさ、テキストは多様な「読み」に向かって開かれていること、そして、なによりも「読む」ことの楽しさを教えていただきました。（大橋政男）



## 日本の将来を見極める眼力を培う学習を

岡山学習センターは、平成7年、岡山大学の古い施設を借用して発足し、現在の岡山大学文化科学系総合研究棟の5-6階への移転を経て12年を経過しました。岡山駅からも近く、美しい大木の本立に囲まれた、願ってもない環境を誇っています。2007年4月1日付けで所長と事務室長が同時にこの学習センターに赴任し、与えられた任務を遂行しながら、放送大学の存在意義と使命を深く認識するに及んで、任務の重要性でプレッシャーさえ感じるようになりました。折も折、“第19回全国生涯学習フェスティバル（まなびピア岡山2007）”の企画立案をする役目が本センターに課せられましたが、サークル活動を核とする在学生と同窓会の有志の皆さんが参加されて、知恵と労働力を提供していただき、何とか本大会に漕ぎ着けることが出来ました。本紙面を借りて厚くお礼申し上げます。



岡山学習センターは、“まなびピア岡山2007”開催期間中に、石弘光学長と安井昭夫山陽技術振興会会長による特別講演会（生涯学習：その意義と展望）を企画しました。石学長は、「少子高齢社会とどう向き合うか」という演題で、少子高齢社会の中で、国民各自が“眼力”を備えることが極めて重要で、その意味で放送大学の果たす役割が極めて大きいことを強調されました。安井会長は、「受けて尽くせば人生無駄なし」と題されて、壮年を終えて人生経験豊かな層の人々が、社会のため国のため、ボランティア精神で社会とかかわる事が重要であること、そのためには人間関係が財産になることを、ご自分

の経験を基に熱く語られました。このお二人のご講演は、放送大学に与えられた使命を今まで以上に明確に、浮き彫りにされたと思っています。

### 客員教員による特別ゼミナールの開始

現在岡山学習センターに所属する客員教員の先生方は、各自週1回学生相談室に4時間入室され、学生の皆さんの質問や相談に応じていただいています。これに加えて2008年4月より各先生方（所長を含めて）の専門分野に基づいた話題を提供していただく「特別ゼミナール」を開始する予定です。詳細につきましてはおってお知らせしますので奮ってご参加ください。

### サークル紹介

岡山学習センターで活躍するサークルは（括弧内は人数）、“硬式テニスクラブ（26）、英会話クラブ（30）、パソコンクラブ（140）、インドネシア語クラブ（25）、俳句クラブ（26）、カメラクラブ（20）、中国語クラブ（38）、川柳を楽しむ会（12）及び「日常の心理」クラブ（10）」の9サークル（317）です。サークルは、幅広い年齢層の学生諸君が多種多様な人生経験と学習経験を交流する生きた学習の場でもあります。ちなみに、パソコンクラブの2008年は、「試験前-風邪に負けるな！焼き牡蠣大会〜！」で活動開始だそうです。



岡山学習センター  
岡山市津島中3-1-1（岡山大学構内）〒700-0082  
（JR岡山駅からバスで10分）電話：086-254-9240

## 退任のごあいさつ

### 大学に誇りを持つ

山田 辰雄 社会と経済 教授  
総合文化プログラム 文化情報科学群



教師も学生も自らの大学に誇りを持たない大学は、必ず衰退する。我が放送大学は誇るに足る大学であると、私は思っている。

放送大学は日本で最も完備した通信制の大学である。教科書は4年に1回書き換えられる。そこには常に新しい見解と知識が注入される。一般にこの種の教科書が世に出ると、そうしばしば書き換えられることはない。その教材の理解は、放送メディアを利用することによって一層促進される。それは、他の通信制の大学には見られない特徴である。

放送大学の教員集団は、日本で最も優れた人材を集めている。一つの大学、一つの学部がこれほど精選された研究者・教育者を集めることはきわめて例外的である。大多数の教員は優れた研究業績を積み、豊かな教育経験を持った人々である。若くして放送大学に就職し、後に教授になった教員は、きわめて厳しい昇任審査を経てきた人々である。

豊かな社会経験を持った学生諸君がこれらの誇るべき特徴をどのように活用するかは、その努力にかかっている。私は放送大学に奉職して6年という比較的短い時間であったが、退いた後にも大学の発展を願いつつ、これらの誇りを糧として生きていきたいと思っている。

### 放送大学のさらなる充実と発展を

西原 浩 大阪学習センター所長



放送大学には専任教員として、また大阪学習センター所長として6年間お世話になりました。在職中は、教授会はじめ各種委員会のメンバーとして、また近畿ブロックの拠点センターとして、働かせていただきました。大阪幕張間の往復は何回になるでしょうか。

放送テレビ授業「光電子技術とIT社会（04）」の主任講師もやらせていただき、印刷教材、放送教材の準備や海外ロケ、通信問題や単位認定試験問題の作成などの大変さを経験しました。センターでは、年間平均60科目の面接授業の企画、講師の依頼、実施を6年間遂行しました。また、卒業研究に関して地元の他大学教員に指導を希望する学生が20人程いますので、その依頼や実施が大変でした。面接授業や卒業研究に対して他大学の先生方が気持ちよく熱心に支援してくださったのには感激いたしました。放送大学はそのように他大学の先生によって支えられていることを実感しました。私は、学生の方々が少しでもより満足して学習していただけるように、種々提案・実行し、微力を尽くしてきました。

幕張では、多分野の多彩な先生方とお近づきになれたことは有意義なことでした。事務職の方にも大変お世話になりました。学習センターでは、多くの熱心な生涯学習に励む学生の方々に出会い、第二の人生のお手本を見せてもらいました。そのような方々の学習支援をさせていただけたことを嬉しく思っています。放送大学は我が国における他に代え難い重要な役割を持っている大学です。放送大学のさらなる充実と発展を祈念いたします。

### 語りきれない思い出をいただいて 長岡 亮介 自然の理解 教授 総合文化プログラム 環境システム科学群



放送大学には、客員時代も含めると長くお世話になりましたが、特に専任となってからの10年間は、やや大袈裟に言えば、感動と驚愕、そして不思議に満ちた時間でした。

最大の感動は、面接授業で接する学生の皆さんのひたむきさと学生や教員をサポートする大学職員の生真面目さでした。私語や内職がありえないという雰囲気の中で講義できたことは大切な思い出です。

もっとも驚異に感じたのは、世界の遠隔教育大学との接触でした。UKのThe Open Universityをはじめ、各国の公開大学の野心的な戦略性と機動的なシステムには、やがて日本も巻き込まれざるを得ない教育ビッグバンのうねりを感じました。このような驚愕体験を特別講義（「知の変容」シリーズ）にまとめる苦勞もいまは懐かしい思い出です。

私が最後まで腑に落ちなかったのは、「いつでもどこでも誰でも」という高尚な理念を実際に具体化する際の必然的な困難についての議論や、その困難を克服する具体策の検討が行なわれることがあまりないことでした。「先立つものがない」ことが大きな理由でしょうけれど、良い教育には大きなコストがかかるのは自明だと思います。これは学生の皆さんにも分かって欲しいと思います。

最後になりますが、専門分野が遠く普通には交流する機会を得ることができない、多くの立派な研究者の警咳に接することができたのも、素晴らしい経験でした。深く感謝致します。今後は、放送大学で得た経験を活かして生きて参りたいと思っています。

\*上記3名の先生の他に浜口教授がご退任となりますが、本誌4・5ページ掲載の「放送大学の歴史」の執筆により、あいさつ文に代えさせていただきます。

## 学習センターを基地として学びを力に

埼玉同窓会会長 森岡 加代さん

埼玉同窓会は平成2年の設立以来、放送大学の歴史と共にあり、会員数が1000人を超える大所帯です。この会員を繋ぐのが会報「さくら草」です。会員の中には現役学生として大学と関わり続ける方もおりますが、卒業後はどうしても大学との距離が遠のきがちです。

そこで埼玉同窓会では、学習センターと協力することを考えました。

まずは学習センター主催の講演会のPRと案内役を買って出る事、さらに出前型講演会を共催する事にしました。ここでは同窓会が会場探しをするのですが、現場を訪ねるうち地域で活躍する卒業生の情報を耳にすることも多く、点在する卒業生を繋ぐ必要性を感じました。

先日も熊谷市の橋本富美江さんから、こんなお葉書をいただきました。

「さくら草、楽しく拝読いたしました。私が放送大学を卒業したのは平成7年でした。大学で学んだ事が、今とても役立っております。特に卒業論文は苦勞しましたが、文章の書き方を学び、作文募集による都市計画審議員や健康づくり推進員に選ばれま

した。また、ボランティア活動で地域のお年寄りのミニ・デイや子育てサロンで助成金を頂くこともできました。(中略) 学ぶことは、その人の人生まで変える大きな力があると思います。」

今年度は、学生サークル(C)・同窓会(Sさくら草)・学習センター(C)を結ぶCSC交流会も発足しました。学生や卒業生が学びを力として如何に社会に貢献できるかは、大学の真価が問われるところでもあります。学習センターを基地として、その輪が広がって行きますように。

埼玉同窓会は、地道に活動する卒業生のお役に立てるよう努力して参りたいと思います。



## 「鹿児島同窓会」の紹介

鹿児島同窓会会長 斎藤 国久さん

鹿児島同窓会は、平成14年9月に設立されました。本会では毎年の春秋時の入学、卒業時に入会案内を行うほか、卒業生を主体としたレセプションも開いています。

更に、本年の一月早々、鹿児島同窓会出水支部が主体的に動いて、「鹿児島の渡り鳥ツルの生態と保護」について、鹿児島学習センター主催の「公開講演会」を開催しました。

これには地元出水市、同教育委員会、鹿児島県、鹿児島大学、更に報道機関の後援を頂いて大々的に行われました。特筆すべきは、放送大学本部からも「大学の窓」取材陣が来鹿され、当日の活動状況を撮影されたことです。同窓会をはじめ関係者一同感謝し明日への活力の源となりました。また、本会々員の中には地元テレビ局に勤務するカメラマンもいて、その腕を活かして同窓会の活動状況をVTRに

収め、今後の学生募集を目的とした各種イベントに利用することにしています。

同窓会は、センターが開催する研修旅行、納涼船等各種イベントにも積極的に参画するほか、今後は事情が許せば県内各支部と連携して、センター所属客員教授の出前講義を実施して、息の長い、他とは一味も二味も違った生涯学習としての放送大学への入学を勧めるべく活動の輪を拡げていきます。



平成20年度大学院 文化科学研究科(修士全生)入学者選考結果

修学支援課

修士の学位取得を目指す大学院修士全生に495人が合格しました。

プログラム(群)	総合文化		政策経営	教育開発	臨床心理	計
	文化情報科学群	環境システム科学群				
募集人員	140人程度	130人程度	130人程度	60人程度	40人程度	500人
出願者数 (倍率)	159人 (1.2)	176人 (1.3)	155人 (1.3)	146人 (2.3)	627人 (15.7)	1,263人 (2.6)
合格者数	135人	133人	123人	64人	40人	495人

※倍率は出願者数/合格者数

夏季集中科目の学生募集が始まります

学生サービス課

夏季集中放送授業期間に「学校図書館司書教諭資格取得に資する科目」、「看護師資格取得に資する科目」を開設します。学生募集等の日程は下記のとおりです。

	学校図書館司書教諭資格取得に資する科目	看護師資格取得に資する科目
学生募集要項配布	平成20年 4月 1日(火)～	平成20年 4月 1日(火)～
出願受付期間	平成20年 5月 1日(木) ～5月31日(土)	平成20年 5月 1日(木) ～5月31日(土)
放送授業期間	平成20年 7月22日(火) ～8月 8日(金)	平成20年 7月22日(火) ～8月 8日(金)
通信指導提出期限	平成20年 8月15日(金)	平成20年 8月15日(金)
単位認定試験	平成20年 10月20日(月) (単位認定試験レポート提出期限)	平成20年 9月26日(金)(予定) 平成20年 9月27日(土)(予定) いずれか1日を選択

夏季集中科目の受講を希望する方は、大学本部学生サービス課又は最寄りの学習センターまでご連絡ください。この要項はご連絡いただいた方だけに配布します。在学生が履修を希望される場合にも科目登録申請要項(夏季集中型専用)を入手して、必要な手続きをお願いします。

平成20年度第1学期面接授業(毎週型・土日型)科目の追加登録

教務課

4月から始まる第1学期面接授業(毎週型・土日型)について、空席がある科目は追加登録をすることができます。登録機会は3回、日程等は以下をご確認ください。

空席状況(追加登録の対象となる科目)は、空席発表日以降、各学習センターの掲示・キャンパスネットワークホームページ(<https://www.campus.u-air.ac.jp/u-air/>)でお知らせします。受講したい科目をご確認のうえ、登録受付期間内に、当該科目を開設する学習センター・サテライトスペースの窓口にて、学生証、授業料を持参のうえお越しください。また学習センター等では郵送による申請を受け付けます。「面接授業時間割表」等で郵送の取扱有無を確認のうえ、郵送申請の前に各学習センター等にお問い合わせください。

	空席発表日	登録受付期間	4月に新規入学・継続入学された方の申込み
第1次追加登録	3月8日(土)	3月21日(金)～3月26日(水)	×
第2次追加登録	4月中旬	4月下旬の5日間	○
第3次追加登録	5月上旬	5月中旬の5日間	○

編集後記

最近、図書館で本を読む人が少なくなってきたらしい。今号の編集がたけなわになったころ、都市部の図書館では本の貸出数は増えているが、入館者数は減少気味だ、という統計が話題になった。インターネットの普及で、自宅で調べて借りてきてしまうのだそうだ。ちょうどそのころ、近くの図書館に招かれて喋る機会があった。集まったのは、毎日図書館に通って、調べものをしたり論文を書いたりしている熱心なマニアの方々だった。簡単に調べて借りるだけの人は図書館に留まらなくなったのだが、依然として、図書館で一日たっぷり過ごして研究に勤しむ人びともたくさんいるのだということがわかった。放送大学の学生方のなかにも似た人がいたな、と親近感を覚えた次第である。(坂井素思)

放送大学通信 オン・エア 編集委員(平成19年度)  
 委員長 教授 柏倉 康夫  
 副委員長 教授 滝口 俊子  
 委員 教授 松村 祥子  
 教授 星 元紀  
 准教授 坂井 素思  
 准教授 齋藤 正章  
 准教授 島内 裕子  
 編集事務担当 教務部学生サービス課

ご感想やご意見をお聞かせください。メールアドレス [editor@u-air.ac.jp](mailto:editor@u-air.ac.jp)

 **放送大学**  
<http://www.u-air.ac.jp/> ISSN 1343-3369